



■ 神無月

秋の彼岸も過ぎ、さすがに猛暑の時期は終わったと思えるようになりました。この夏には「地球沸騰」などという言葉も生まれました。群馬、埼玉、京都などで35℃超えの猛暑日が40日以上も記録されました。去年は兵庫県豊岡が30日であったので、今年がいかにか暑かったかが示されています。記録は次のサイト参照 http://sdc.weathermap.co.jp/count/temp/?T=max_35_over&Y=2022

昔の人は10月を神無月と呼び、日本各地の神様は皆、出雲に行ってしまう、地元には神様がなくなってしまうためにこう呼んだとのことですが、神様は出雲で何か重要会議を開いていたのでしょうか。神様たちが集まる出雲では「神在月」と呼ぶのはよく知られています。

神様が皆、出雲に行ってしまうので各地元ではそれでは困るということで留守を守る留守神様もいます。それはどのような神様でしょうか。

その代表は「恵比寿神」、漁業、商売繁盛の神です。「金比羅神」は航海安全・漁業、農民には豊穰、そして商売繁盛。「竈(かまど)神」は日々の食を守り、「道祖神」は、村境に立って村落を疫病や厄災から守る神様です。旅の安全も守ってくれます。いずれも私たちの日常生活に直結している神様たちです。

首脳の外遊中にも国をしっかりと守る、どこか現代社会にも通じますね。

☆☆☆ 巻頭の写真は神津島「水配りの像」☆☆☆
伊豆七島の神様が神津島に集まって水の配分を決める会議を開いたとのこと。その様子を示す像で、配分が少ないと一人ふて寝をする神様が手前の岩に寝そべっています。余りにも人間臭い神様ですね。近年この島を訪れる機会がなく、写真は Google Earth から引用しました。(田代)



会員相互のコミュニケーションツールとして、趣味や健康管理、日頃考えていることなどの情報交換に活用していただきたいと思います。

担当者として最大の関心事はどれだけ皆さんに見てもらえるかということですが、「見たよの一言でモチベーションが高まります。」

今後もより充実した情報を提供し、真の皆様にとって真に役立つHPを目指して行きますので、皆様からの投稿も多にお寄せください。

宮田宏美



シニアクラブのホームページ(HP)を担当する宮田です。HP開設から早くも8年が経ちました。当初わからないことが多かったのですが、経験者にアドバイスを受けながらHPを立ち上げました。

開設後、最大のトラブルは契約したレンタルサーバー会社がハッカー攻撃を受け、サーバーがダウンしてしまったことです。それまで構築したデータが全て失われてしまいました。その後、信頼性の高い別のサーバー会社と契約して現在に至っています。

ホームページの運営にあたり著作権や個人情報保護については最大限の注意を払っています。特に活動を記録した動画などは公開を限定しており、一般のネット検索ではヒットしません。

■ 活動報告「Online 会合(9/25)」

江戸時代も後半になると浮世絵の出版が活発になり、歌舞伎もの、人物画、風景画等様々な題材で描かれた浮世絵が庶民の間で人気を博しました。



街道もの浮世絵は庶民の間に旅ブームを引き起こし、版元の企画のもとで絵師、彫士、摺士が活躍しました。今回はその中から「東海道五十三對」をテーマとしてそこに描かれた絵と物語を眺めました。

報告は <http://jvc-senior.com/20230925onlinev2.pdf> 参照

■ イグノーベル賞2023

10月最初の週はノーベル賞ウィークで、これから次々と受賞者の名前が発表される予定です。

それに先立つ形となりましたが、9月15日にはイグノーベル賞の受賞発表がありました。

時にはジョーク、時には思わぬ発想の転換で人を笑わせ、うならせる研究テーマが対象です。

今回も日本人が受賞対象となりましたが、電気刺激により味やにおいを感じる研究でした。具体的にはこの研究を基に作成した箸やお椀を使えば、わずかな塩分でしっかりとした塩味を味わうことができ、日頃塩分が制限されている人には朗報です。

<https://gigazine.net/news/20230915-ig-nobel-prize-2023/> 参照
この映像の56' 20"ごろから日本の研究紹介があります。



賞金は10兆ジンバブエ・ドル。これは日本円に換算するとかつては3万円ほどであったが、ハイパーインフレのために0.3円程度となり、現在は使用不可となっています。

しかしこのお札は土産品などとして市場に出ており、amazon で調べたら未使用品3枚セットで1万円の値がついていました。

今回の表彰式は Online で行われたため、受賞者にはお札のプリントデータが送信されて、自身で印刷したものを受け取っていました。

シニアクラブ会員の中からも過去に自身の研究を審査対象として応募したことがあると聞いています。結果は別として、世界中に感心を湧き立たせるチャレンジは素晴らしいことです。

イグノーベル賞には毎年日本からの受賞が続いているとのことですが、これこそ庶民の力の表れであり、日本人の豊かな発想の賜物と言えるでしょう。

■ 物流業界の2024年問題

国交省資料 <https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001620826.pdf>

最近、テレビなどで盛んに報道されていますが、タクシーや路線バスの運転手不足が深刻な問題になっているとのことです。

コロナ禍による需要減少でタクシー運転手は6万人も減ったとのことです。さらに運転手が高齢化する一方、若者のなり手が少ないために、タクシー会社では車庫に止まったままの車が並び、バス会社では運行本数の極端な減便や路線の廃止などが進んでいます。

なぜこのような現象をきたしているのか、つまるところ、運転手の労働環境が厳しいからです。

このような中で、来年度から残業時間が年960時間に制限されることとなります。これで運転手の労働環境が良くなるのかどうか分かりません。

運転手の賃金は一般の正規雇用者に比べて低いといわれ、時間外手当の減少でさらに手取りが少なくなると、運転手の転退職で一層の人手不足を招く恐れもあるとの見方もあります。

マスコミではバス・タクシーの問題が多く取り上げられているようですがトラック業界も同じです。

いかにして労働環境を改善していくか根本的な検討が必要で、業界だけではなく政治の力も加えて一層の合理化、環境改善が求められます。

菅義偉前首相は自論のライドシェア推進を訴えています。一部地域でレベル2～4の自動走行バスの運行も行っています。今後安全面の問題を始めとして様々な法的な見直しが必要です。

物流においては船や鉄道なども利用するモーダルシフトがうたわれています。CO2排出抑制で環境面でのメリットもあるといわれていますが、“今日送れば明日には届く”という感覚に慣れた私たちの考えも見直していかねばなりません。

9月には新幹線を利用して長野のシャインマスカットを東京に送るという実証実験が行われました。

写真引用:長野朝日放送 →
2024年問題はさらなる知恵やアイデアで乗り越えていくことができるのではないのでしょうか。



■ 事務局から

第22回総会が10月24日(火)に開催されます。

総会出欠返信ハガキは9月末現在で100枚ほど届いています。総会には40人ほどの参加連絡をいただいておりますがさらに多くの参加を期待しています。

返信ハガキは手元で温めることなく、10月7日までに必ず投函してください。お願いします。

事務局長 田代 周